

令和七年度 施設長研修会

日 時 令和七年十二月十六日（金）

今年度の民間園長研修会は、こどももまんなか社会の実現に向け、施設長としての役割を再認識し資質向上を図ることを目的として開催されました。

【講義①】『持続可能な保育の質の向上と組織マネジメント～心理的安全性を高め学び続ける組織の要因～』

洗足こども短期大学教授 井上眞理子 氏



昨年年度に引き続き井上氏にご登壇頂き、前回の内容を発展させたマネジメントのお話と心理的安全性について講義頂きました。

持続可能な保育の質の向上と組織マネジメントとは、子ども周りにいる大人の視点と心理的安全性について講義頂きました。持続可能な保育の質の向上と組織マネジメントとは、子ども周りにいる大人の視点と心理的安全性について講義頂きました。

なる。一方フィルターの多様性を前提とした「調整型」の組織は衝突を緩和・研磨し合い多様性を調和・発揮し成長し易い組織となる。類似型は組織としては初期の段階であり、調整型はより成熟した組織ではあるが衝突緩和のためのマネジメントが必要になる。より持続可能かつ成長し続ける調整型の組織モデルとして、職員が本気・本音でぶつかり合い、主語が自分で「私はこう思う」を言い合いそれを多様性として認めあえる組織が、円滑に省察を可能にし保育者の専門性の成長に繋がる。保育者の気づきを躊躇わずに発信できる風土の度合いを「心理的安全性」と言い、その度合いが高い組織の特徴である七つの概念を説明して頂きました。

【講義②】『いま、何故子ども真ん中なのか』

保育SOWラボ 代表 井桁 容子 氏



井桁氏曰く、こどもまんなか保育の視点から、よりこども・保護者・保育者のウェルビーイングを目指すためには、アンラーンという過去の成功を手放し先入観を捨て、今までの保育観・乳児観を更新していくこと、その上で本来の意味のアタッチメントである、子どもが心の底から安心感・安全感を得られる環境を保障することにあると仰っています。

今までの乳児観では、無能で・受動的で・無個性であるという考え方でしたが、一九七〇年頃から、寧ろ子どもは有能であり、能動的

であり、個性的であることが分かって来ました。その有能な子どもたちが安全感・安心感を得られるには、やりたいことができる、して欲しくない事は止めてと言える、して欲しいと言える。と子ども自身が感じることにあります。それらを保育者として満たすために本当に信頼をしてもらうために、重要なポイントとして、子どもの行動の理由を的確に洞察し満たす力を育てること、知るよりも感じること・神秘さや不思議さに目を見張る感性であるセンス・オブ・ワンダーを取り戻すことで子ども理解を深めること、子どもの前でごきげんな大人であること、肯定的な表現が多い大人であること、大変な時にこそどうしたらできるかを考え実践する大人であること、等の要素を教えてくださいました。

【講義③】『保育情勢報告』

静岡県保育連合会 岡田 泰稔 会長



現在の保育における情勢報告をお話頂きました。岡田会長によると、一般社団法人となつた静岡県保育連合会に所属する意義・メリットとして、連合会主催の研修受講や保育情勢のいち早い共有、そして組織の会員数に裏付けられた行政に意見し動かす力などが挙げられ、保育情勢をいち早く受取る方法として全保協のメール配信サービスを挙げており、鮮度は劣るが要点を纏めて確認し易い全保協ニュースレターなどもお勧めして頂きました。